

報告書とりまとめに向けて

資料5

1. 中心テーマの抽出

これまでの議論・議題の中で共通するトピックは何か

ネットワークや社会システムの

アーキテクチャの分散化・オープン化

これに関連した、個人、システム、組織等の

ダイナミックな連携

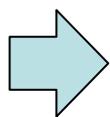
この動きにより促されるのは
「知識創造のプロセスの変革」ではないか

2. 報告書の議論展開(案)

ICTによる知識創発の新しいプロセスを、 個人とコミュニティの関わり（共感） を中心に展開する

具体的には、ICTの利活用により、

- ① 豊富な情報を持つ個人が、既存組織にとらわれずにコミュニティを形成して自由にコラボレーションする過程で、形式知と暗黙知が相互に作用し、製品開発プロセスのイノベーションや新ビジネスの誕生といった新たな知識創造が連鎖的に発生するのではないか。
- ② 個人は自己実現のために自らの創造性を最大化させる一方、既存の企業等はコミュニティを投資・活用対象として知的資産の流動化・回転率向上を図り、よりよい製品・サービスを提供する、そんな社会システムに変わっていくのではないか



以上のような流れの中で、課題の抽出や国の果たすべき役割を論じてはどうか。

とりまとめイメージ（案）

タイトル：知識とICTの統合が実現する「個が共感する感動社会」

第1部：総論（ICTによる知識創造プロセスの变革）

1. 「情報フロンティア」の位置付け（の明確化）
2. 現状分析（産業のモジュール化、個人間情報流通の本格化）
3. 今後の見通し①：自立した個人の自己実現
4. 今後の見通し②：ダイナミックな（知的）コミュニティの組成
5. 今後の見通し③：企業による知的資産の外部化・内部化
6. ICTによる知識創造プロセスの变革
7. 政策目標：ICTにより個人と個人が共感できる世の中に

第2部：知識創発を促すICTの動向と未来像

1. ダイナミックなサービス連携の実現（セマンティックWebサービスの発展）
2. ソフトウェアのグローバルソーシング（オフショア開発の推進）
3. 社会の暗黙知の探索（ネットワークデータマイニング）
4. 情報流通の变革（P2P、ブログ等の発展）
5. 個人の創造力が報われる産業アーキテクチャ（ニュービジネス支援）

第3部：提言

※骨太の項目を！

（
具
体
例
）

- ・企業活動の变革（社会（コミュニティ）投資ファンドの推進）
- ・「エスタブリッシュメント」の変質（パートナー社員制度の導入）
- ・個人の活動分野の変化（週休4日制とコミュニティ活動の促進）
- ・分野・組織横断的な連携強化（官民交流促進）

等